

2022年度 須磨学園夙川高等学校入学試験

学力検査問題

国 語

(注 意)

解答用紙は、この問題冊子の中央にはさんであります。まず、解答用紙を取り出して、
受験番号シールを貼り、受験番号を記入しなさい。

1. すべての問題を解答すること。
2. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
3. 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰ること。

※ 設問の都合上、本文を一部変更している場合があります。

学校法人 須磨学園 夙川高等学校



□後のグラフィIは、マスクを着けると話し方や態度が変わることがあると思うかどうかを調査した結果を示しています。また、グラフィIIは、グラフィIを踏まえて、具体的にどのような話し方や態度を変えるかを調査した結果を示しています。次の会話を読んで、後の問いに答えなさい。

【会話文】

夙子…マスクを着けたままの生活もすっかり慣れたわね。川子はどう？

川子…そうね、私もマスクをしていないと気持ちが悪く着かなくなるまでマスクが馴染んだわ。そういえば、新聞で面白い記事を見かけたの。グラフィIを見て。マスクをしている時は話し方や態度が変わると思うという人が六割もいるんだって。

夙子…うなずける結果ね。マスクをしたままだったり、飲食店でお互いの間にアクリル板があったりすると、相手が何を言っているのか聞き取れないことがあるもの。マスクをしていない時と同じように話すとうまくコミュニケーションが取れないことがあるわ。

川子…そうね、私も友達とおしゃべりをしている時に、何度も聞き返されたことがあるわ。

夙子…それに、顔全体が見えないから、どんな表情で話しているのかわからないわ。自分はそのつもりで言ったわけではないのに、相手を不愉快な気持ちにさせてしまうこともあるかもしれないね。

川子…でも、マスクをしていても、目元は見えているわよ。ほら、□Xと違ってよく言うじゃない。なんとなく、表情を読み取れると思うのよね。

夙子…そうかしら。私はマスクをした状態だとお互いの表情を読み取ることが難しいと思うわ。だからこそ、話し方を普段とは変えた方がいいと思うの。自分の見えない表情を補いたい時には、話すタイミングに気をつけたり、身ぶり手ぶりを増やしたりしているわ。

川子…なるほど、声を大きくしたり、話す速さに気をつけたり、はきはきと話したりするような相手に物理的に言葉が届くための工夫だけではなく、夙子^Aがさつき挙げた例以外にも表情が見えないことを考慮した工夫が必要ということね。

夙子…そういうこと。マスクをしている時には、見えない表情に気をつけて、話している内容に違いがないか気をつけながらコミュニケーションをとることが必要ね。

川子…たしかに。グラフィIIをみると、声の大きさに気をつけたり、はっきりとした発音で話すような、聞こえやすさを意識している人は□Iわね。一方で、見えない表情を補うような工夫を意識している人は□IIということがわかるわね。

夙子…そうね。私も相手の表情が見えないことまで考えて話すことはなかなかできていないわ。マスクをしている時に気をつけるべきことは様々だということを再認識したわ。すぐ実践することは難しいけれど、これからもマスクをつける生活が続くのであれば、円滑なコミュニケーションのための技術を身につけたいわ。

□の設問

問一 □Xに入る言葉として最も適切なものを、次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 口八丁手八丁
- 2 口はわざわいの元
- 3 目は口ほどに物を言う
- 4 細い目で長く見よ

問二 グラフィIからわかることとして適切でないものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 七〇代で、「変わらないと思う」と回答した割合が大きいのは、他の年代よりも人と話す機会が少ないからである。
- 2 どの年代においても、半数はマスクを着用した時には話し方や態度を変えらると思う傾向がある。
- 3 二〇代から四〇代の年齢層で、「変わらないと思う」と答えた割合が特に少ない。
- 4 マスクを着用した時に、話し方や態度が変わると思うと答えた割合が最も大きいのは二〇代である。

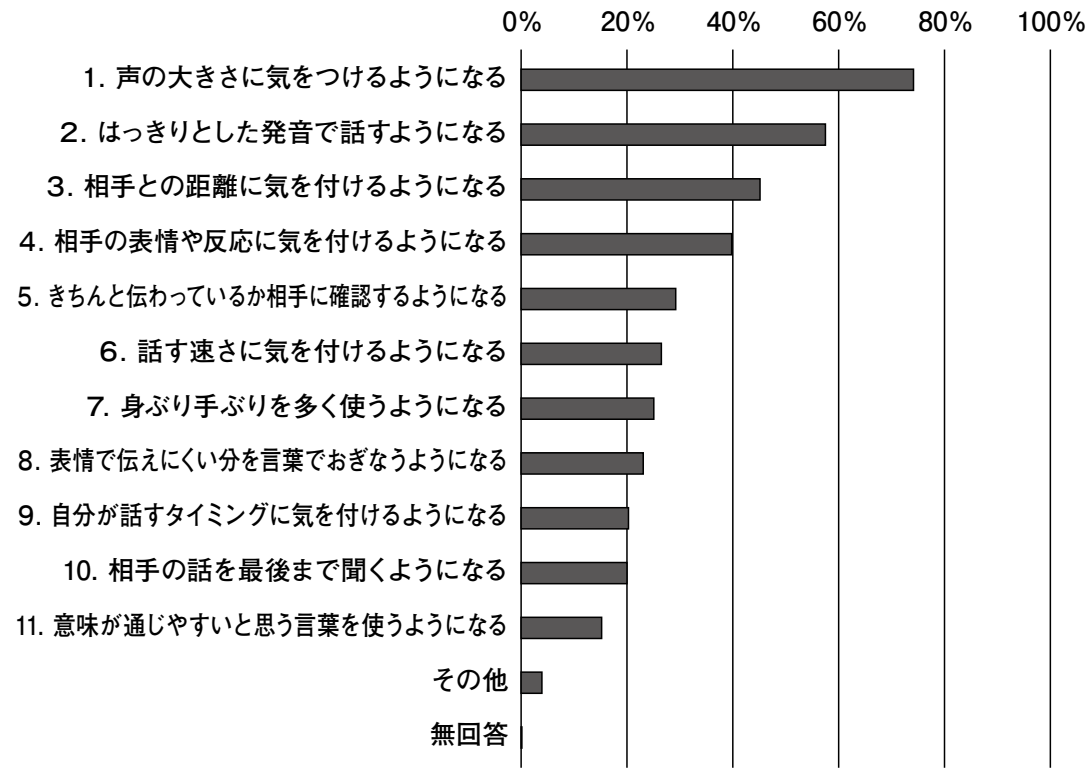
問三 「夙子がさつき挙げた例以外にも表情が見えないことを考慮した工夫」(——線部A)とあるが、その具体的な工夫をグラフィIIの項目の中から、三つ選び、番号で答えなさい。

問四 □I、□IIにそれぞれ当てはまる言葉の組み合わせとして、最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

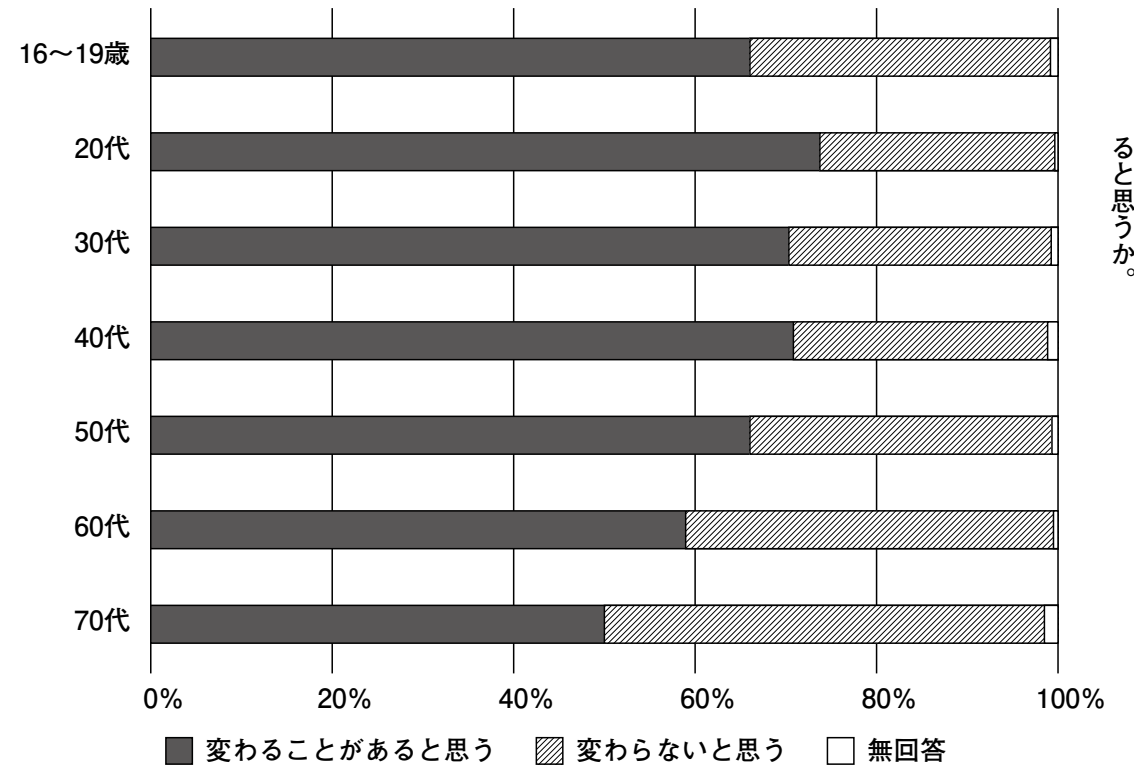
- 1 I 多い II 多い
- 2 I 少ない II 多い
- 3 I 少ない II 少ない
- 4 I 多い II 少ない

問五 会話文からわかる夙子の考えとして最も適切なものを、次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 マスクをしていても、表情がある程度読み取れるので、コミュニケーションには大きな声とはっきりとした発音が最も必要である。
- 2 円滑なコミュニケーションのためには、マスクをしていても相手の表情を読み取る技術と、そのためのトレーニングが必要である。
- 3 マスクをした状態での会話では、自分の意図が正確に伝わらないことがあるので、相手の表情が見えないことも考慮しながら話す必要がある。
- 4 マスクをしたままで会話をする時は、相手を不愉快な気分させないために、声を大きくしたり、はっきりと話したりする工夫が必要である。



グラフⅡ：マスクを着けると変わることがあると思う点



グラフⅢ：マスクを着けると話し方や態度などが変わることがあると思うか。

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(出題の都合上、原文の表記を一部改めたところがあります。)

「ウェルビーイング」という言葉の語源は、「being (本質)」と「well (満足)」だ。しかし、この「満足」をどれほどの時間軸で捉えるかは難しい。たとえば、今日という一日の単位で考えれば、嫌なことはないに越したことはないだろう。一方で、長い人生で考えると、山あり谷ありの方が良いこともある。このように、満足の意味は時間軸で変わるといふ点もふまえつつ、「日本のウェルビーイング＝満足の本質」を考えてみよう。

第二次世界大戦後、日本経済は右肩上がりに伸びてきた。では、日本人の生活満足度・人生満足度はどうだったかという点、実は平行線だ。戦後行われてきた国民生活選好度調査によると、生活の満足度には変化はない。「戦争」「貧困」「病気」の三大苦が大きくカイゼンされても、意外なことに満足度への影響はなかったのだ。

ならば、戦争のような一時的変化ではなく、一〇〇年、二〇〇年続くような本質的な三つの「変化」に注目してみよう。一つ目は「人生一〇〇年時代」だ。これまでの健康づくりは、早死にしないことにシユガンが置かれていたが、一〇〇歳まで元気に生きるにはどうしたらいいのかが問われていくだろう。二つ目は、世の中のA I化が及ぼすインパクト。三つ目は、都市化だ。かつて、これほど知らない人に囲まれて生きる社会はなかった。そんな都市にいと、知っている人の元へ、つまりスマートフォンの中に逃げ込みたくなる。こうして、物理的には知らない人に囲まれ、知っている人の世界はスマートフォンに向こうにあるという不思議な構造が生まれたのだ。

では、そんな時代における日本のウェルビーイングとはなんだろう。ここではいったんホンスジを離れ、そもそも「理解」とは何かを考えてみよう。

理解には三つの形態がある。一つ目は、分解して再構築すること。物事を「ロジック」で捉えるこの手法は、デカルト以来四〇〇年間続く西洋的アプローチであり、今回のコンテキストで言うならば「ウェルビーイングという捉えがたいものをどう分解するのか」という話になる。ただし、このアプローチは比較的単純な物事にしか通じない。物事が複雑になると、たとえ分解はできたとしても再構築することが難しいからである。複雑な物事を考えるときに有効なのは、物事を本質で捉える「I 観」的手法だ。これはほとんどのことをノイズとして取り除き、本質だけを理解すればよいというアプローチである。さらに、西洋的な「ロジック」に対して日本人が得意とするのは三つ目の「直観」による理解だ。つまり、「見ればわかる」というアプローチである。

「ロジック」「I 観」「直観」——それぞれの観点で、ウェルビーイングとは何かを考えていこう。「ロジック」によるアプローチでは、まずウェルビーイングを測定し、要因を分析する。測定に関しては、国連が毎年一五〇以上の国・地域を対象に

行っている幸福度調査の結果をまとめた「World Happiness Report」が参考になるだろう。ちなみに、二〇一九年の報告書で日本は五十八位だった。この調査における幸福度と最も関連が高いのは「一人当たりのGDP」で、収入や年収が上がるにつれて幸福度は上がるということになる。さらに関連度が高いものは二番目に「困ったときに頼れる人がいるか」、三番目に「平均寿命」、四番目に「自分の人生を自由に選べる感覚」と続く。しかし、こうした観点からウェルビーイングを理解するのは難しい。

たとえば、二〇世紀で最も研究された病である心臓病には、かかりにくい人の特徴として「高収入」「友達が多い」「非喫煙者」など、マクロ、メゾ (マクロとミクロの間)、ミクロを合わせて一〇〇個以上の要因が明らかになっている。それにもかかわらず、いまだに発病する理由の半分も説明できていない。仮にすべての要因を理解しても、それらの相互作用が複雑すぎて制御不能になり、データを使って何かをしようとしてもモグラ叩きになるだけで、叩けば叩くほど新しい問題が出てきてしまうからだ。そう考えると、ウェルビーイングをロジックとして理解することは難しい。

ならば、「I 観」で理解するアプローチはどうだろうか。まずはこの手法を、狩野派が描いた『洛中洛外図』という絵画を例に考えてみよう。京都の街を描いた本作は、橋や衣服、履き物といった各要素は非常に細かく描かれている一方、絵画全体で見ると大部分が雲で覆われている。この不思議な構図のウラにあるのは、ある種の「ごまかし」だ。日本の画家は、京都とは何たるかを要素ごとに分解して再構築することは不可能だと判断した。そこで、ビッグピクチャーとしての京都と、いくつかのディテールを描き、その間を「間」としてごまかしたのである。実は、これは物理学者がよく使う手法でもある。ビッグピクチャーとディテールの間を行き来しながら現象を理解していくと、物の見方がやがてロジックから解放されていくのだ。

では、人生をビッグピクチャーとして捉えるとはどういうことか？ 私は人生を春夏秋冬にⅡ 昔ながらの考え方に則り、一〇〇年の人生を二十五年ごとのビッグピクチャーに区切るのがよいと考える。人生最初の二十五年は、肉体的に成長する「春」だ。次の二十五年は、精神的成長が進み、働きながら家族を扶養する「夏」。さらに、肉体的にも精神的にも成熟した「秋」になると、人生一〇〇年時代の本番がやってくる。たとえばノーベル賞受賞者を考えても、研究者たちが受賞のきっかけとなる研究を始めた年齢は四〇歳から五〇歳だと言われている。また米国で雇用を生んでいるベンチャー企業は、社会経験もスキルも人脈も築いた五〇歳前後の人間が創業していることが多い。五〇歳までに蓄えた力を使って、本当にやりたいことを始めるのがこの秋なのだ。さらにこの時期に働いて築いたものが、「冬」である七十五歳以降の自分を支える基盤となる。

本文は、裏面に続きます。

三つ目は「直観」による理解だった。「見ればわかる」が大切なこのアプローチでは、ロールモデルを見つけたもの勝ちだ。私は高校生の頃からヘルマン・ヘッセの作品の主人公のように生きたいと思っていたし、テレビ番組に出ていたあるおじいちゃんを観て「これだ」と感じたこともある。これが、直観的理解というもののものだ。

最後に、前述した三つの本質的变化にどう適応していくかを考えよう。まず人生一〇〇年時代とは、修行期間の延長ということでもある。ここで問われるのは、長きにわたって自分というものをどう動機づけるかだ。また二つ目のAI化では、クリエイティブな思考が問われるなか、「そもそも考えるとは何か」を考えることが重要になってくる。最後の都市化については、人類の脳がまだ多様な人との共存に慣れていないということ覚えておかねばならない。いかにこの状態に慣れていくかが、ウェルビーイングのカギになるだろう。加えて特に日本で重要なのは、社会保障の観点だ。医療・介護・年金で、大きく世代別の割り当てをみると、子ども世代二〇兆・現役世代二〇兆・高齢世代九〇兆という数字が浮かび上がる。こうしたウェルビーイングの推進がいかに財政安定化、社会保障にキヨするかを、今後必ず考えなければいけない。そうでなければ、ウェルビーイングを国全体として進めることにはならないのだから。

(石川善樹「日本のウェルビーイング」を
理解するために)による)

注1 AI：人工知能。人間が持っている、認識や推論などの

能力をコンピューターでも可能にするための技術の総称。

注2 デカルト：フランスの哲学者、数学者。

注3 アプローチ：学問研究において、対象にせまること。

注4 コンテキスト：文章において、文意あるいは語の意味を

決定する前後の関係。文脈。

注5 ノイズ：耳障りな音。騒音。雑音。

注6 GDP：国内総生産。国内で新しく生産された商品や

サービスの付加価値の総計。

注7 マクロ：巨大であること。巨視的であること。

注8 ミクロ：非常に小さいこと。極小。

注9 ビッグピクチャー：問題の全体像。

注10 デイテール：ある事柄に付随する、個々の具体的で細かな事実。

注11 ベンチャー企業：新技術・新事業を開発し、事業として
発足させた中小企業。

注12 スキル：訓練して身につけた技能。

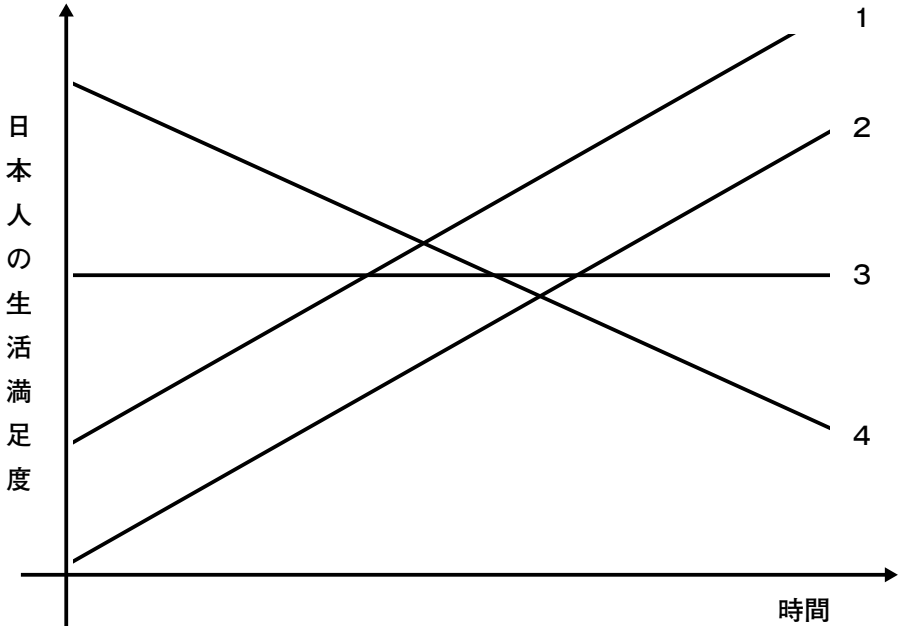
注13 ロールモデル：自分にとって、具体的な行動や考え方の
模範となる人物のこと。

注14 ヘルマン・ヘッセ：ドイツの小説家・詩人。

注15 クリエイティブ：創造的。独創的。

二の設問

問一 「実は平行線だ」(——線部A)とあるが、日本経済に対する日本人の生活満足度を表すグラフとして最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。



問二 「そんな時代」(——線部B)とあるが、その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 長寿化と世の中のAI化によって、大都市で知らない人との関係で何かあったときにはスマートフォンの世界に逃げ込んで、現実から離れたくなる時代。
- 2 長寿化と世の中のAI化によって、大都市で周りには知らない人ばかりで、知っている人はスマートフォンのネットの世界にだけいる時代。
- 3 長寿化と世の中のAI化の中で、スマートフォンによって、大都市に生きる人々の生活方式は変化し、現実とスマートフォンの世界が近づいている時代。
- 4 長寿化と世の中のAI化の中で、スマートフォンの仮想の世界でのつながりの方が、大都市で実際に近くに住む人々よりも強いつながりがあるという時代。

問三 「ロジック」(——線部)とあるが、同じ意味になる語句として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 管理
- 2 推理
- 3 論理
- 4 物理

問四 I には「局所・局地」の対義語が入る。空欄にあてはまる漢字一字を書きなさい。

問五 「こうした観点からウェルビーイングを理解するのは難しい」(——線部C)とあるが、その理由として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 二〇世紀で最も研究された病である心臓病には、かかりにくい人の特徴として「高収入」「友達が多い」「非喫煙者」があげられるから。
- 2 要因がマクロ、メゾ、ミクロを合わせて一〇〇個以上が明らかになっても、心臓病発生の理由を全く説明できていないから。
- 3 要因がすべて理解できても、それらの相互作用が複雑すぎて制御不能になり、データを使って何かをしようとしても、他の要因が発生するから。
- 4 ビッグピクチャーとディテールの間を行き来しながら現象を理解していくと、物の見方がやがてロジックから解放されていくから。

問六 ~~~~~線部a e のカタカナを漢字に直しなさい。

問七 本文に書かれている内容として正しいと考えられるものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 日本的ウェルビーイングとは細かくウェルビーイングを分解してアプローチすることで、本質にせまるものであるということが書かれている。
- 2 狩野派が描いた『浴中浴外図』という絵画は京都をビッグピクチャーとして捉えることで、絵画の本質に近づくことができる例としてあげられている。
- 3 西洋的な「ロジック」に対して日本人が得意とするのは「直観」によるアプローチで、それによってのみウェルビーイングを理解できると書かれている。
- 4 国連が行った幸福度調査の結果をまとめた「World Happiness Report」をもとに考察すると、ウェルビーイングを理解することは難しいという結論に至っている。

問八 II に入る語句は「あるものを、それ以外のあるものと同等のものと見なして考える」という意味である。「な」から始まる平仮名五字の語句を書きなさい。

問題は、裏面に続きます。

問九

本文から読み取れる筆者の「ウエルビーイング」に対する考えとして最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 コンテキストに注目しながら、デカルト以来続く西洋的アプローチであるロジックで捉えがたいウエルビーイングを分解しながら理解を進め、本質的な理解につなげていくべきである。
- 2 狩野派が描いた『洛中洛外図』を例にとって、京都をディテールではなく、ビッグピクチャーとして捉えるように、人生も四季のように理解していくことを提案している。
- 3 直観によるウエルビーイングの理解は日本人が最も得意とするもので、ビッグピクチャーとディテールによる理解ではわからない部分が生じてくるので、直観によって補っていく必要がある。
- 4 人生一〇〇年時代、AI化、都市化の本質的な変化の中でウエルビーイングを一つ一つ分解して考察し、社会保障、財源安定化のもとで考えていかなければ、本質的な理解にはつながらない。

〔三〕 数年ごとに大流行して多くの人命を奪う天然痘。その疫病に絶対確実な予防法が異国から伝わったと知った福井藩の町医・笠原良策は私財を投げ打ってその予防を進めようとする。次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

福井の町には、連日のように雪が舞った。

良策は、朝早く起きると隣の仮種痘所に行く。すでに妻が治療室におかれた大きな火鉢に炭火を熾して待っている。ようやくかれが長い間夢にえがいていた仕事が始まったのだ。

しかし、福井に帰った翌日から早くもかれの胸に不安がきざした。その日は、親戚の者に頼んでそれらの子供に種痘を試みようとしたが、親は恐れて子供を渡さない。

良策は、決して危険はないのだと説いてようやく二人の子に種痘をすることができたが、そのわずらわしい説得に疲れた。しかし、かれはそれにもめげずその夜、提灯を手に雪道を歩いて子供がいる家々を訪ねてまわった。

「あなたは、子供が可愛いであろう。種痘をすれば、子供は一生疱瘡にかからぬ。なにも恐れることはない。異国では、種痘のために多くの人たちが疱瘡の被害から救われている。日本でも、長崎や京都や大坂で多くの子供たちに種痘がおこなわれ、親たちは神のお恵みくださった仁術だといって喜んでいゝ。子供が可愛いと思つたら、仮種痘所へきて種痘をさせなさい」

良策の言葉に、

親たちは、

「へい、へい」

と言つてうなづく。

「それでは、明日の朝必ず子供を連れてくるように」

念を押すと、かれらは、うなずいた。

十軒近くの家々をまわつて、かれは家にもどつた。親たちの困惑しきつた顔が思い起こされた。種痘という言葉は、かれらにとつて初めてきく言葉なのだ。良策は、それについて説明し、西洋から伝えられた良い予防法なのだ、と言う。しかし、一般の人たちは、異国ときいただけで身をふるわせる者がほとんどで、葡萄酒をむ西洋人を生き血をすする動物のように錯覚し、日本人の口にしない牛や豚の肉を食べる西洋人を野蛮な人間だとみる。その西洋人が伝えた種痘などは、なにか悪魔の妖術のように思うのちがいがなかった。

長崎、京都、大坂は西洋文明に接する機会も多いだけに、種痘をひろめるのにもそれはどの困難はない。が、北陸の福井は文明の恩恵からはなれた地で、人々には、異国に対する恐怖のみがあり、西洋医学を治療に応用することはきわめてむずかしい。

良策は、あらためて種痘をひろめる仕事が可能ではないことを痛感し、その夜訪れた家々の親たちが、果たして種痘に応ずるかどうか疑問をいだいた。

かれの恐れていた予感ほ、翌日現実のものとなつてあらわれた。治療室に炭火を熾して子供たちを待っていたが、いつまでたつてもだれ一人としてやつてはこない。訪れてきたのは、珍しい種痘を見学にきた数名の町医たちだけであつた。

仮種痘所を出た良策は、雪の中を歩きまわつた。が、来ると約束していた親たちは、子供をかくしたり、一家で家を留守にしたりして良策の求めに応じようとはしない。

或る家を訪れると、顔を青ざめさせた母親が、

「そんな恐ろしい疱瘡の毒を可愛い子供に植えられたら、子供は疱瘡にかかつて死んでしまふ」

と、甲高い声で叫んだ。

良策は、そんな恐れはないと説明したが、女は戸を荒々しくしめた。

かれは失望したが、氣をとり直して他家の家々をまわり、ようやく二人の子供の両親をなだめすかして種痘所に連れて来させ、種痘をすることができた。

かれは、暗澹とした氣持になつた。人命を救うために努力を重ねてきたのに、人々は恐れおののいてその予防法を避けようとしている。一般の人々だけではなく、藩の役人の態度も、ひどく冷たい。京都から福井城下にもどつたかれが役人のもとへ報告に行つても、役人はねぎらいの言葉もかけてはくれない。ただ、そうかと言つただけで、白けた表情をして邸の中に姿を消した。京都では種痘に成功した後すぐに役人がやってきて、種痘所をひらく手続きをしたりしてくれたが、それに比べて、福井藩ではその後役人の訪れてくる氣配もなくなんの音沙汰もなかった。

良策の努力は自分の栄達のためではなく、直接には福井藩内の人たちを救う目的をもっている。当然、役人は良策が種痘をうけた子供を連れ帰つたことを喜び、藩をあげて協力してくれるべきであつた。が、役人たちは、奇妙な療法を持ちこんできたとしても、いゝように良策に白い眼しか向けない。

同業の医家の態度も、役人のそれとほとんど同じであつた。府中の斎藤策順、生駒耕雲、渡辺静庵の三医家は協力してくれたが、それ以外の医家は、ただ見学しにくるだけで力を貸してくれようとはしない。むしろ冷やかな眼で、ながめているだけだつた。そうした医家の中で、ただ一人三崎玉雲という町医のみが良策の仕事を理解し、熱心に仮種痘所へ通つてきてくれていた。かれは、代々医業をつぐ福井の名家の出で、良策の苦衷を察して自分の家の近くに住む子供の親に種痘を受けるようにすすめたり、種痘法を学ぼうと良策の種痘を熱心に見守つていた。

本文は、裏面に続きます。

良策は、玉雲の熱意を嬉しく思った。種痘をする前の診察、種痘、その後の鑑定もすべてかれ一人で行っているが、玉雲に一刻も早くその方法を熟練させたかった。

良策にとって協力者が玉雲だけであることは、心細かった。種痘を受けさせるための子の親に対する説得と、種痘の仕事にかれは疲れきっていた。このような状態がつづけば、近い将来過労で倒れることが容易に想像できた。

かれのもっとも恐れていたのは、^{注4}痘苗がきれてしまうことであつた。痘苗は、子供から子供へと種痘をつづけてゆくことによつて受けつがれてゆく。しかも、その種つきをする日は、子供が種痘してから七日目で、もしもその日に種痘をする子供がいなければ、その瞬間に痘苗は断ちきられてしまう。

かれは、痘苗が絶滅する不安におびえ、それをふせぐための方法についてあれこれと思索した。それには、まず藩の協力を得ることが必要だつた。人々は、種痘を恐れているが、その恐怖感をぬぐい去るためには藩が積極的な姿勢をとつてくることが先決だつた。

今の状態では、良策個人の療法にすぎず、人々が I をいなくとも無理はない。種痘所といつても、買いつつた隣家をあてただけのもので、設備も貧弱であつた。できれば、藩が公の種痘所を設けて、種痘が天然痘を予防するすぐれた医術であることを一般に伝えて欲しかった。

(吉村昭『雪の花』による)

注1 天然痘…ウイルスによる感染症。多くの死者を出した。

注2 種痘…天然痘の予防接種。

注3 疱瘡…天然痘のこと。

注4 痘苗…天然痘のワクチン。

三の設問

問一 ～～～線部X「一般」の対義語を漢字二字で答えなさい。

問二 ～～～線部Y「ねぎらい」という行為にあてはまるものを、次の中からすべて選び、番号で答えなさい。

- 1 スーパーで買い物をした時、レジを打っていた人に「ありがとう」と言った。
- 2 友人が国語の授業ノートを見せてくれたので、自分は理科のノートを見せてあげた。
- 3 町の清掃を手伝っていた時、そばを通った人に「ご苦労様」と声をかけてもらった。
- 4 混みあった電車に乗った時、入り口の人が困らないように奥につめてあげた。

問三 ——線部a「ように」と同じ意味で使われているものを、——線部b～dの中から一つ選び、記号で答えなさい。

問四 「不安がきざした」(——線部A)とあるが、不安とは何か。最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 一刻も早く対応すべき事柄なのに、藩の役人の協力が望めず、万全の提供が出来ないために町の人々と信頼関係が築けないのではという不安。
- 2 疱瘡から身を守るために、子供に種痘しゅとうを試みようとするが、西洋の予防法などは、得体の知れない恐ろしいものだと感じる親が接種を拒むのではないかと不安。
- 3 疱瘡という感染症に打ち勝つためには、種痘が最良の予防法だと、親も頭では理解しているが、前例がないことなので説得が難しいのではないかと不安。
- 4 西洋文化になじみのある長崎や京都では、種痘に対して理解を示したが、福井では抵抗が見られるため説得に時間がかかり、自分が感染するのではないかと不安。

問五 「暗澹あんたん(先の見通しがつかず、絶望的になる事)とした気持」(——線部B)とあるが、具体的にどのような気持ちになっているのか。最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 天然痘てんねんちゅうに立ち向かうには、自分一人で奮闘しても意味がなく、町の人々や役人、医家達と協力し合うことが何より重要であるのに、あまり関心を寄せない周囲の状況に失望している。
- 2 予防法は見つかったが、肝心の子供を抱える親たちがしり込みをしたことで、自分の熱意を理解しようとしてもしない親たちの浅はかさに意気消沈してしまい、気力がなくなりつつある。
- 3 異国から入った予防法であることに、ほとんどの人間がおじけづき、頼みの綱の役所が肝心の許可を下ろしてくれないので、どうすることもできない状態になり、ひどく困惑している。
- 4 天然痘は感染力が非常に強く、手をこまねいているうちに事態が深刻になることに恐怖を感じ、自分自身がいつ感染するかわからないことにおびえながらも、名誉のために力を注ぐことに疑問を感じ始めている。

問六 良策の要望に対する人々の反応はどのようなものか。最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 役人たちは種痘を持ってきたことを喜び、協力の姿勢を見せたが、肝心の医家達が新しい療法にしり込みをしてなかなか行動に出てくれない。
- 2 子供の命を奪う療法だと怒りを表す親がいる中、子供が助かるならと種痘を接種させようとする親もいるが、多くの痘苗が絶滅している状態になった。
- 3 福井藩の役人は奇妙な療法を持ってきたと冷たく接し、同業の医家達も冷ややかな眼でながめる中、一人だけ理解を示す医家の協力が見られた。
- 4 良策の必死の説得に多くの人々は耳を傾けようとするが、薬の信用性が完全でない状態で治療を進めようとする良策にいぶかしげな視線を送る人もいる。

問七 Iに入る最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 一体感
- 2 不信感
- 3 絶望感
- 4 危機感

問題は、裏面に続きます。

問八 この文章からうかがえる「良策」の人物像はどのようなものか。最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 自分自身の出世を第一にせず、ひたすら病から人を救おうとするひたむきな人物。
- 2 事柄より情を大切にし、相手の立場を第一とするため、自分の意志を貫くのが苦手な人物。
- 3 徹底的に調査をし、納得の行くまで正義を貫こうとする意志の強い人物。
- 4 相手の意見を尊重し、どんな犠牲を払おうとも迷わない使命感の強い人物。

問九 この文章の表現・内容について、最も適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 多くの人間の立場から物事を観察し、それぞれの心情を生々しく表現している。
- 2 主人公を中心に、その強い思いと苦悩を、第三者の視点で描いている。
- 3 主人公の目線で心中の苦悩が描かれ、雪の風景と重ねることで、物語に重みを持たせている。
- 4 登場人物の目線で、淡々と事実のみを見事に描写している内容になっている。

四

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

むかし、^{注1}惟喬の親王と申す親王^aおはしましけり。^{注2}山崎のあなた

に、^{注3}水無瀬といふ所に宮ありけり。年ごとの桜の花ざかりには、

その宮へ **I** おはしましけり。その時^{注4}右の馬頭なりける人を、
いつもお連れであった。

常に率^Aておはしましけり。時世^{ときよ}へて久しくなりにければ、^Bその人の
名前を忘れてしまった。狩りは熱心にはせずにお酒を飲みながら、和歌
名忘れにけり。狩はねむごろにもせで酒をのみ飲みつつ、やまと歌
に熱中していた。

にかかれりけり。いま狩する交野^{かたの}の渚^{なぎさ}の家、その院の桜ことに
おもしろし。その木の下におり居て、枝を折りてかざしにさし
て、^C上中下みな歌よみけり。馬頭なりける人のよめる。

X 世の中に絶えて桜のなかりせば

春を過す人の心はどんなにどかであることぞしよ
春の心はのどけからまし

と **II** よみたりけり。また人の歌、

Y 散ればこそいとど桜はめでたけれ

つらこの世の中で何が長く続くだろうか、長く続くものなどない
うき世になにか久しかるべき

とて、その木の下は立ちてかへるに、日暮になりぬ。

(新潮日本古典集成『伊勢物語』による)

注1 惟喬の親王…文徳天皇の皇子。

注2 山崎…現在の京都府乙訓郡大山崎町。

注3 水無瀬…現在の大阪府北東部。平安時代は親王の狩猟地
や行楽地であった。

注4 右の馬頭…官馬や諸国の牧場の馬の管理などをつかさ
どった役所の長官。

四

の設問

問一 「おはしましけり」(~~~~線部a)を現代仮名遣いに改め
て、全て平仮名で書きなさい。

問二 「率ておはしましけり」(——線部A)の主語は誰です
か。本文中から五字以内で抜き出しなさい。

問三 「その人の名忘れにけり」(——線部B)があるが、それは
なぜか。最も適切なものを次の中から一つ選び、番号で答え
なさい。

- 最後に会った日から時間が経っているから。
- 多くのひとと出会った日であったから。
- 遠い所に住んでいるひとであるから。
- 仕事をするときにしか一緒にいないから。

問四 「上中下みな歌よみけり」(——線部C)とはどういうこ
とか。最も適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えな
さい。

- 団体の代表者が、それぞれ和歌を詠んだということ。
- 作品の完成度を問わず、全員が和歌を詠んだということ。
- 身分の上下を問わず、全員が和歌を詠んだということ。
- その場で詠まれた和歌を全て、全員で詠んだということ。

問五 **I** と **II** に「なむ」を入れると、文末の「け
り」はどのように変化するか。最も適切なものを次の中から
一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 けら
- 2 けり
- 3 ける
- 4 けれ

問題は、次の用紙に続きます。

問六 次に掲げるのは、本文中の和歌X、Yに関して、生徒同士が交わした授業中の会話です。和歌の解釈について、五人の生徒からだされた発言を読んで、適切な発言をしている生徒を次の中から二人選び、番号で答えなさい。

【会話文】

生徒1 Xの和歌は桜の美しさを褒めているものですよ。桜以外のものがなければ余計なことを考えずに、もっと春を穏やかに過ごせるのにと、春の桜を愛しているという心の表れなのでしょう。

生徒2 そうでしょうか。Xで桜がなければいいと詠んでいるのは、散ってしまうことを心配しているからだと考えられます。桜さえなければそんな心配はいらす、もっと穏やかに春を過ごせるのにと、現実離れた想像をしているのではないのでしょうか。

生徒3 なるほど。それではYの和歌は、桜の花が散ってしまったと嘆むこと、Xの和歌に同意しているということですね。「うき世」とは、つらい世の中という意味の言葉ですが、華やかな桜は、落ち込んだ自分と対照的な存在だと感じたのですね。

生徒4 確かに、桜の花は散るからこそいいと詠んでいます。しかし、そのような理由でしょうか。疑問の表現は反語として現代語訳することもできます。桜に限らず、永遠に存在して良いものはない、と主張したかったのだと思います。

生徒5 Xの和歌では桜がなければいいのという前提によって、むしろ桜自体のほかなさを強調している。一方で、Yの和歌では桜は散るからこそ価値があると、Xへの反論をしている。目上の相手であっても、議論できることが、和歌の面白味のひとつなのですね。

↓ここにシールを貼ってください↓

受験番号

2022年度 須磨学園夙川高等学校 入学試験解答用紙 国語

※	※	※	※	※	※	※	※	※	二	※	※	※	※	※	一
問九	問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一	(※の欄には、何も記入してはいけません)	問五	問四	問三	問二	問一	(※の欄には、何も記入してはいけません)
	な		d a		局										
			e b												
			c												

※

※

※	※	※	※	※	※	四	※	※	※	※	※	※	※	三
問六	問五	問四	問三	問二	問一	(※の欄には、何も記入してはいけません)	問九	問七	問五	問三	問二	問一	(※の欄には、何も記入してはいけません)	
								問八	問六	問四				

※

※

※

